

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 9 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100165		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい段原		
所在地	〒732-0819 広島市南区段原山崎3丁目6-1 (電話) 082-510-0722		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100165-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年9月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

医療と連携をとり、ご利用者を安全かつ最後まで人としての尊厳を保ちながら生活できるよう、支援をさせて頂いております。生活歴を紐解き、個別性を大切に、利用入所されてもその人らしく過ごせるような個別支援に力をいれております。また、ご家族様と共に情報を共有しながら、一緒に人生の最後に向けてどう過ごすかを、ご家族、ご本人の思いをくみ取りながら支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

街なかの至便な住宅街にあるグループホームふれあい段原は、安心と安らぎのある生活を送ってほしいとの願いから、医療・看護・介護のトータルサポートのもと、一人ひとりのニーズや思いに寄り添うケアに努めている。一緒に笑い、語り、喜びを共有しながら、利用者の「その人らしい暮らし方」を見つめ、福祉専門学校の実習生やボランティア等の受け入れをはじめ、今春から始めた「オレンジカフェさくら」や恒例の納涼祭など、様々な行事を地域ぐるみで楽しみ、皆で出来る限り活動的に、そして穏やかに暮らせるよう心がけている。開設十年目を迎える節目でもあり、新たな気持ちで、地域との関係性や家族他との絆をより一層深めるべく、職員全員でスキルアップを継続し、より良い支援に取り組んでいる事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念及び「好縁会生活作り10カ条」を主軸に、管理者と職員はその意図とするところを共有し、実践につないでいる。朝礼時は全員で復唱し、一日の目標を立て、サービスを提供している。	法人理念を念頭に、利用者にとって出来るだけ心身共に活動的で、なお尊厳が守られた生活が出来るよう、朝礼時に「生活づくり10ヶ条」を唱和し、職員間で共有している。また一日の目標を立てたり、啓発を深めながら、職員各々の向上心・自主性に繋げていきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、寄り合いに出席している。町内清掃など、地域の行事にも率先して参加し、地域の方々との接点を持つよう心がけている。挨拶への気配りにも注意している。地域への貢献のために、公園などの清掃活動にも積極的に参加している。施設の行事へはチラシを配布し、多くの方にご参加へご協力いただいている。	町内の清掃活動をはじめ、夏祭りや公民館祭りなど、様々な催しにも意欲的に参加し、また納涼祭など、グループホーム内行事には多くの地域住民が集い、事業所からの思いを届けている。ボランティアや福祉専門学校の実習生の受け入れ等、地域と密着しながら、関係性を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会出席など、事業所の力を発信している。地域貢献できる機会を逃さないよう、住民の声を真摯に受け止めて、反映させている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実績を伝えている。又、利用者様の日常の様子を、写真を見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。ご意見、要望は真摯に受け止め、サービスの向上に努めている。	二ヶ月毎に開催される当会議では、参加メンバーで活発に意見交換がなされ、集約、検討し、支援につなげている。その議事録は各フロアーに置き、閲覧可能となっている。今後は、老人会にも声掛けを予定している。また今春から「オレンジカフェさくら」を毎月開催し、家族や地域住民に参加して頂き、運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議へのご案内を、毎回送らせて頂いているが、参加にはいたっていない。サービスをご理解していただく機会を、持っていないのが現状である。	日頃から相談や情報交換など、運営推進会議の参加も含め、地域包括支援センターと密に連携を図っている。区の担当者には運営推進会議への出席をはじめ、今後はホーム側から、より積極的な関わりが持てるような取組みを目指している。	

3.49E+09

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置している。絶対に行われぬよう、意識の徹底と周知を行っている。</p>	<p>定期的な研修や、日々のケアのなかでも気づきを話し合い、身体拘束をしないケアに対する意識を高めている。また身体拘束廃止・虐待防止委員会を設け、啓発を促し、より良い支援につなげている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧し、全職員で周知徹底し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度を利用されているご利用者がおられ、権利擁護について、まず管理者及び介護支援専門員が理解するとともに、個別の案件において、適切な援助ができるよう努めている</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書に基づいて、ご利用者、ご家族に、契約時にきちんと説明している。変更が生じた場合も、速やかにお知らせし、不安や疑問点がある場合については、ご理解が頂けるよう説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を実施し、その際、運営等に関する質問や意見を伺い、返答及び意見の反映ができるよう努めている。また、その内容を職員全体会議にて、職員全員に周知している。</p>	<p>主に面会時などで、日頃の様子を伝えたり、年一回開催の家族会での、意見・要望を取り入れた支援を心がけている。毎月のモニタリングでは、遠方の方からは電話で話しを伺うなど、細やかな対応をしているが、今後はさらにコミュニケーションを深め、ご家族等からの意見がサービスに反映できるよう、職員全員で取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも、気づいた事があれば、話し合い、対策・改善している。	毎月のフロアミーティングでは、カンファレンスに関する話し合いが主に行われている。スキルアップとして、移乗の介助方法や環境に合わせた入浴方法の工夫など、介護アドバイザーによる研修を設けている。それらの理解度を深めるため、育成シートの活用も考慮し、職員間でスムーズな支援につながるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標（チャレンジシート）を作成し、目標達成に取り組んでいる。又、評価表を用いて、各職員の努力や実績を評価している。四半期に分けて個人面談を行い、進捗状況に合わせた課題を抽出し、向上に向けてのアドバイス、不安や悩みがないかなどのケアも行なうよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修委員会があり、内部研修（ステップアップ研修）が頻繁に行われている。外部研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、参加しやすい体制が整っている。事業所内でも、法人内の介護アドバイザーによる研修を月に一回行い、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム段原、同段原山崎の共同で開催している認知症カフェに、他法人に参加してもらい、交流機会を設けている。意見交換や情報交換ができる場として活用している。		
n					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前に管理者、フロアリーダー、看護師が訪問し、関係作りを開始している。可能な限り、ご本人様の不安や思いを伺い、少しでも不安を取り除けるよう努めている。担当職員を中心に、全職員で関係作りに取り組み、安心感の醸成に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	ご家族の不安やご要望など、十分に話を伺い、誠意を持って受け止め、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。グループホームでの様子を、写真入りのお手紙と記録に収め、毎月送らせて頂き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	居宅支援事業所と協力連携をとり、他のサービス利用情報も、可能な限りお知らせできるように努めている。アセスメント表を活用し、まず必要とされるサービスの見極めを行い、本人・ご家族との合意の上、支援へとつないでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り共に過ごし、主体性のあるその人らしい時間を大切にしている。より深い共にある馴染みの関係を目指し、安全・安心の生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者の体調や様子を細かくお伝えし、ご家族の不安や心配ごとを伺い、ケアの方向性を一緒に考え、支援している。外出などのご協力もいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来所された時には、話しやすい雰囲気を作ったり、会話の橋渡しをしている。又、馴染みの店や墓参り、美術館に行く機会を作り、実施している。遠方からの面会者やご要望に応じて、一緒に撮った写真を送り、喜んで頂いている。またご家族様のご協力にて、馴染みの場所へ定期的に訪問されている利用者もいる。	面会に訪れる家族や関係者も多く、毎週来るパン屋さん、利用者の楽しみのひとつとなっている。コーラス、フラダンスなどボランティアの受け入れが充実していて、利用者もレイをかけて一緒にフラダンスを踊るなど、職員共々に馴染みの関係を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は、利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置など、リビングの環境に配慮している。又、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り、意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お亡くなりになった利用者様のご家族が、施設に来所されたり、お手紙を頂くなどサービスが終了しても、これまでの関係性を保てる環境を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、本人の思いを十分に聴き出せるよう努めている。ご本人が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。ご本人の今までの生活習慣に近づけるよう、情報を収集し、なじみの場所への個別外出支援も行っている。	その人らしい人生が送れるよう、日常生活記録や個別記録にその思いを記し、アセスメントに繋げている。特に新人研修では、生活歴の汲み取り方やケアプランに活かす方法など、介護アドバイザーも交えた、細部にわたる研修を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、基本情報やアセスメントシートを作成・活用し、ほぼ把握できている。縁者の方々等からも、より詳しく伺ったり、生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。本人の人生史も重視し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録と個別記録を主として、毎日の様子を記録し、全職員が把握し、心身の状況の変化があれば、明確に分かるよう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、ご本人やご家族と話し合いの上、課題抽出をし、目標を見据えたケアプランを立てている。三か月後にモニタリングを行い、見直しをしている。各担当が考えたケアプランとモニタリングは、全職員で回覧し、意見やアイデアを出し合い、検討後、計画を作成している。</p>	<p>心身状況やバックグラウンドなどを加味しながら、職員が日々知り得た情報を基に案を出し、フロアーミーティング内でまとめ、本人・家族ほか関係者と協議し、ケアプランを立案している。幸せづくり計画書を織り込んで、各々のやりがいや夢など、一人ひとりに向き合った個別ケアに活かしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録と個別記録を主な記録とし、心身状態の変化・プラン実施状況・生活状況・会話等を詳しく記録に残している。職員は記録を共有し、ケアプラン作成やモニタリングに反映させ、活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存サービス外と思われるニーズに対しても、可能な限り対応している。個別外出支援をはじめ、外泊時など、突発的な出来事が発生した場合他、送迎を含む柔軟なサービスを展開している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>お墓参りや、馴染みだった店や場所に出かけている。近所のお好み焼き店やお弁当店にて注文し、昼食に充てる事もある。南消防署からは、消防・避難訓練を実施して頂き、指導・アドバイスを受けている。地域においての、豊かで安全な暮らしを目指している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体のクリニックを主治医にされているご利用者がほとんどだが、ご本人とご家族の希望で、他の病院を主治医にされている方もいる。入院時も他院とのカンファレンスを行い、双方で利用者にとって、よりよい支援を検討している。いずれの場合も、ご本人とご家族の要望に沿った医療が受けられるよう、連携して支援している。</p>	<p>週一回、主治医の訪問診療と、訪問看護があり、利用者の健康管理を図っている。外科など、専門医療機関への通院は基本、家族同行だが、要望に応じて職員の付き添いも可能である。また職員は、感染症発生を想定して、後処理ほかの対処法を実際に行なってみるなど、体験を通じて研修を重ねている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週に一度の訪問看護で健康管理が行われている。又、24時間、いつでも連絡が取れる体制になっている。常時、看護師と連携を図り、症状に合わせた適切な受診や看護を支援し、医療面での協働を保っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、安心して入院生活を送っていただける様、また早期の退院に向け、ご本人、ご家族、医療関係者と話しあう機会をつくり、連携に努めている。入院実績のある病院からもご協力頂き、関係づくりは良好と思われる。救急時にも、スムーズな受け入れで、対応して頂いている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認させて頂いている。ご本人とも可能な限り、早期に話し合いの場を持つようにしているが、判断の決定には及んでいない。対象の方には、どのように支援していくのか、職員は状況を把握・共有し、地域の関係者と共に、チーム支援に取り組んでいる。	重度化した場合、主治医を交え、家族、関係者と良く話し合い、今後の方針について同意を得ている。利用者や家族の思いに寄り添い、その都度、意向を確かめながら、最期までその人らしく過ごせるよう、チームで取り組んでいる。オレンジカフェ内でエンディングノートの書き方講習会を開くなど、家族や地域住民と共に、最期の迎え方について、視野を広めている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	救命講習に参加、研修を受けるなどし、急変時の実践・対応へとつないでいる。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	グループホーム内での災害時避難訓練は、定期的に行われている。運営推進会議を通し、防災・災害時の対策について、地域との協力体制を築いている。消防署員からの研修も受けており、備蓄もある。	年二回、消防署員立ち会いのもと避難訓練などを行い、アドバイスを受けている。地域協定は結んでいないが、見守りなどの協力関係を築いている。災害時の一時避難場所として、グループホームを提供する等、相互関係の構築も図りながら、あらゆる事態に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。人生の大先輩として敬うことを、ケア場面にて徹底して実践している。	利用者を人生の先輩として敬い、尊厳を護り、言葉掛けを丁寧にするこ とや、トイレ使用時にはドアの開閉に留意するなど、全員でプライバシー保持をこころ掛けている。迷った時には、自分自身に置き換えてみて支援する姿勢がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様の思いや感情を、自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的両面から自己決定ができるよう、工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り、その方の生活リズムやペースに沿えるよう支援している。本人の思いをくみ取り、寄り添いのケアに力を入れている。起床、就寝、食事、入浴等、個別に支援し、一斉化は行われていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一度、訪問理美容が入っており、その方の好みの整容がされている。行きつけの美容院を利用されている方もいる。マニキュアを塗って、おしゃれを楽しむこともある。いつでもご家族や友人に会ったり、外出できるように気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー決めや盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを、ご利用者に手伝って頂く事もある。職員も同じものを一緒に食べ、楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位や、テーブルとの距離が適切になるよう、細やかに支援している。	朝・昼は配食、夕食はスタッフによる手作りで食事提供をしている。調理のプロセスを利用者と共に楽しみ、美味しそうなにおいや、盛り付けの彩りも、食事には欠かせない大切な要素となっている。時には、ホテルランチの夕食や出前を取ったり、晩酌を楽しむ利用者もいて、皆で食事を楽しむ工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>管理栄養士、看護師との連携を図り、連絡、相談を行い、栄養指導を受けている。食が進まないご利用者には、ご本人の食べたい物・飲みたい物を見出し、提供している。水分摂取の重要性については、全職員が理解し、適切な量を摂取できるよう取り組んでいる。栄養補助食品も導入し、提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科と連携を図り、口腔衛生に努めている。毎食後、ご利用者の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして、義歯洗浄を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄についての研修を行っている。排泄パターンや習慣を把握し、基本的におむつは使用しない。紙パンツもできるだけ使用せず、布パンツでの対応をしている。自立支援と並行し、気持ちのよい排泄を目指している。</p>	<p>排泄表を活用し、各々のパターンやタイミングに合わせて、夜間もトイレ誘導をしている。安心パンツや布パンツの利用者もいて、自立に向けた支援がなされている。今後は、トイレの前にカーテンを取り付ける案など、よりブラバシーを守る支援も視野に入れている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師、管理栄養士と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なっている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動も取り入れて対策している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>可能な限り、希望に沿った入浴の支援に努めている。</p>	<p>曜日、時間に拘わらず、状況を見ながら、出来る限り要望に沿った支援をしている。入浴台の配置を変えながら、各々に合うように調節した入浴法を取っている。時には柚子湯や菖蒲湯など、季節感を味わっていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用前の生活スタイルを崩さないよう、起床時間をご本人の要望に合わせて、日中は体調に合わせて、居室で休んでいただけるよう支援している。夜間は、しっかりと休んでいただくため、居室の環境整備に努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は内服薬リスト・アセスメントシート・薬一覧表などを活用して、状況をほぼ把握している。職員間での連携を密にとり、症状の変化を見逃さないようにしている。服薬管理には意識の徹底を図り、慎重な対応をしている。医療との連携は、密に行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>習字、歌を歌うこと、編み物など、利用以前にされていた趣味や得意だったことを、ご本人やご家族からお聴きし、利用後も継続してできるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>個別支援として、墓参り、美術館、お茶会、宮島競艇、ボーリング、馴染みだった飲食店など、個性の強い外出支援に取り組んでいる。ご家族にご協力をいただいて、定期的な外出される方もいる。天気の良い日は外の花壇の花を見に行ったり、公園へお散歩に出かける支援をしている。</p>	<p>生活リズムを整えるためにも、日頃から散歩、買い物、デイサービスの車を活用したドライブと、外気に触れる機会を設けている。また、季節に応じてリバークルーズやお花見など、心地良い気分も味わいながら、利用者各々の外出を楽しむ工夫がなされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>希望や能力に応じて、ご家族の了承の上、ご本人に管理して頂いている。必要に応じて、買い物ができるよう、ご家族にも協力を仰いでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿って、電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。年賀状なども書いて頂き、送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花を飾るなどして、季節感を出している。カレンダーは日めくりにして、日付がわかりやすいようにしている。馴染みの空間作りができるように、ご利用者が使うものや家具の配置を、余り変えないようにしている。	二階、三階共にリビングの窓は広く、明るい雰囲気、利用者もゆったり寛げるスペースとなっている。一階デイサービスのリビングでは、近隣の同系列グループホームと合同で、運営推進会議などを開催し、有効に活用している。長年、猫も飼っていて、利用者の皆の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりのお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう、家具の配置など工夫している。又、利用者様の希望により、家具や席の配置を変更することもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物は、ご本人の使いなれた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	居室入口には、オハジキやかわいい花をネームプレートにあしらい、個々に合わせた表札を掛けるなどの工夫をしている。お気に入りの品や、愛着のある家具・調度品に囲まれ、その人らしい暮らし方に寄り添いながら、落ち着ける居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室に目印をつけ、わかりやすくしている。ご利用者が使うものの配置を固定し、いつでも使用して頂けるようにしている。浴室は、入浴台の配置を変えることで、利用者様一人ひとりに合った入浴方法にしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい段原

作成日 平成28年12月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災協定を結ぶまではできていないので継続して町内との信頼関係を築いていきたい。さらに町内の方々にも地域の資源となるように協力体制が築いていけるよう努めていきたい。	町内の資源となるべく、災害があったときなど避難所にもなれるよう地域の方に施設を周知していただく。	地域の行事への参加、施設の行事への呼びかけを行い、地域清掃などには積極的に参加する。オレンジカフェの活動を通じて施設に気軽に立ち寄れる場所になれるよう取り組む。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。